

## 新病害「キク茎えそ病」の防除対策

平成19年3月に塩谷町のスプレーギクにおいて、キク茎えそウイルス（CSNV）による新病害「キク茎えそ病」の発生が確認されました。県内での発生状況を調査した結果、市貝町、芳賀町でも発生が確認されました。本病の発生確認は、広島県に続き国内では2例目で、その後千葉県、群馬県においても発生が確認されています。

本病がまん延すると大きな被害になりますので、防除対策を徹底しましょう。

### キク茎えそ病とは？

病徴は品種によって異なりますが、特徴的な症状としては、TSWVによるキクえそ病に酷似した茎えそ、葉の退緑・輪紋・黄化・えそ、また奇形症状が現れます（写真1、2、3、4）。



写真1 茎のえそ症状



写真2 茎のえそ症状



写真3 葉の退緑・輪紋症状

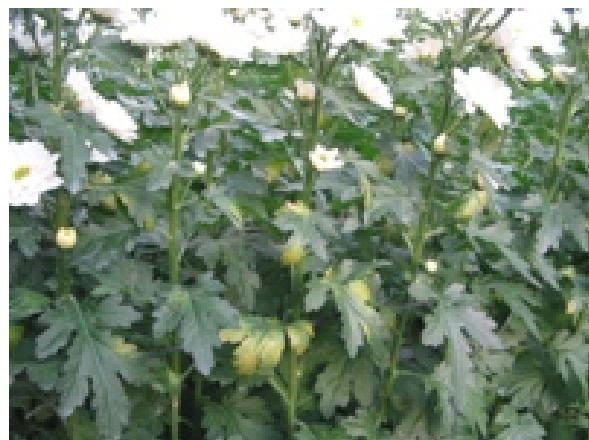


写真4 葉の黄化症状

病徴は、主に栽培株の生育中期以降に明確な症状として現れますが、株によっては生育初期に、また親株でも明確な症状を発現することが確認されています（写真5、6）。



写真5 葉の退緑症状



写真6 葉の黄化、茎のえそ症状

本病は、キク茎えそウイルス（CSNV）の感染によって発生する病気です。本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマによって媒介され、孵化直後の幼虫が感染株を吸汁することによりウイルスを獲得し、保毒した成虫は死ぬまでウイルス伝搬能力を持ち続けます。また、キクは挿し穂で増殖するため親株が感染した場合は、栽培ほ場全体にまん延する危険性があります。しかし、手やハサミでの一般管理作業による汁液伝染、土壌伝染は報告されていません。

### ミカンキイロアザミウマとは？

ミカンキイロアザミウマの体長は、雌成虫約1.7mm、雄成虫約1mmです。体色は、雌成虫では夏期に黄色、冬期に茶褐色となり、雄成虫では年間を通じて淡黄色です（写真7）。

生存期間は30℃の条件下で約40日です。

露地栽培では4月頃から、施設栽培ではほぼ周年にわたって発生が見られます。特に、農作物、雑草をとわず花粉を餌とするため花に好んで寄生し、野外では5月以降に急激に増加します。また、幼虫、成虫とも低温に強く、関東地方でも露地越冬の可能性がります。

飛翔能力は低いものの、風に乗って側窓、天窓から施設内に侵入する可能性があります。野菜類、花き類、果樹類など多くの作物を加害し、キクでの症状は、吸汁加害により新芽が褐変し、展開した新葉は葉表にケロイド症状が現れます（写真8、9）。また、花での症状は、淡色系の花弁では褐色のかすり症状が、濃色系の花弁では部分的な退色が発生します（写真10）。

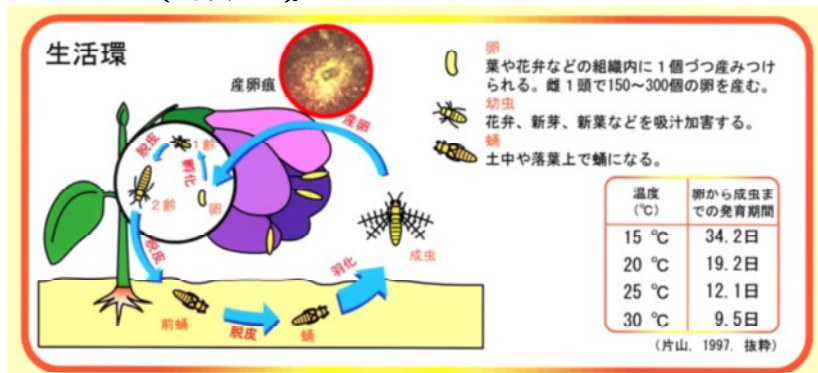


図1 ミカンキイロアザミウマの生活環（大阪府病害虫防除所技術資料より）



写真7 ミカンキイロアザミウマ雌成虫



写真8 新芽への加害症状

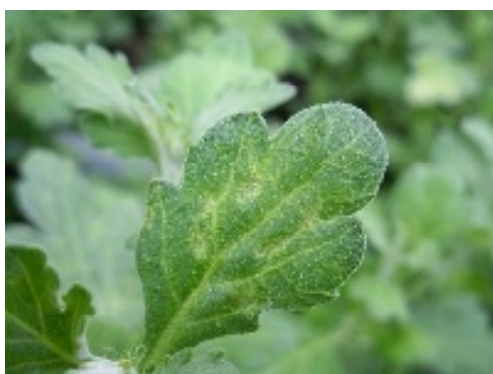


写真9 葉への加害症状



写真10 花への加害症状

## 防除対策

媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除とウイルスの伝染源となる感染株の除去、さらにキクのような挿し穂で増殖する場合は、健全な親株から採穂し、ほ場にはウイルスに感染したキクを持ち込まないことが重要なポイントになります。

### [ 1 ] 無病親株の確保・更新

ウイルスに感染した挿し穂の利用がまん延の一因となるため、キク茎えそウイルスに感染していない健全な親株を確保する。また、親株床でのミカンキイロアザミウマ防除を徹底する。

本ほ場で多発した場合は、親株の感染が疑われるため、早急に健全な親株に更新する。また、更新した親株への再感染を防ぐため、育苗専用ハウスを設けて隔離栽培を行う。発生地域からの挿し穂等の移動は行わない。

### [ 2 ] 発病株の早期処分

発病株をほ場内に放置することは、ミカンキイロアザミウマがウイルスを獲得して、周囲にウイルスを伝搬することになるため、速やかに抜き取り、土中に埋めるなどの処分を行う。

### [ 3 ] ミカンキイロアザミウマの防除

#### ( 1 ) 耕種的防除

##### 被覆資材の利用

施設の外張りに近紫外線除去フィルムを使用する。また、開口部に白色または銀色の防虫ネット（1mm目合以下）を張り施設内への侵入を防ぐ。

##### 残花の処分

花粉を餌とすることで急激に増殖するため、採花後の残花はほ場内に残さないように早めに摘み取り処分する。

##### ほ場周辺の環境改善

ほ場周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの発生源となるため、除草を徹底する。また、花き類や野菜類を植えないようにする。

### ハウスの蒸し込み・土壌の蒸気消毒

施設栽培で多発した場合は、雑草を含めた全ての株を抜き取り、ハウスを密閉し夏期では7日から10日程度、春や秋では2週間程度を目安として蒸し込みを行い、ミカンキイロアザミウマを死滅させる。また、土壌の蒸気消毒は土中の蛹を死滅させる効果が高い。

### (2) 薬剤防除

親株床では定期的に、本ぼでは生育初期に粒剤を株元散布し、ミカンキイロアザミウマの発生を防除する。

施設開口部付近のキクから発生しやすいので、葉での加害状況をよく観察する。また、花や葉を白い板の上で軽くたたいたり、青色粘着板をキクより少し高い位置に設置し、早期発見による早期防除に努める。

発生がみられた場合は、7～10日間隔で薬剤防除を行う。

### キクのミカンキイロアザミウマ及びアザミウマ類に登録のある農薬

| 系統名      | 薬剤名         | 希釈倍率等        | 使用時期 / 使用回数 | 適用害虫        |
|----------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| ネコチナイト   | モスピラン水溶剤    | 2,000倍       | 発生初期 / 5回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
|          | ベストガード水溶剤   | 1,000倍       | 発生初期 / 4回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
|          | ダントツ水溶剤     | 2,000倍       | 発生初期 / 4回以内 | アザミウマ類      |
| I G R    | マッチ乳剤       | 1,000倍       | 発生初期 / 5回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
| フェルピラゾール | プリンスフロアブル   | 2,000倍       | 発生初期 / 5回以内 | アザミウマ類      |
| その他      | アフーム乳剤      | 1,000～2,000倍 | 発生初期 / 5回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
|          | コテツフロアブル    | 2,000倍       | 発生初期 / 2回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
|          | スピノサート顆粒水和剤 | 5,000倍       | 発生初期 / 2回以内 | ミカンキイロアザミウマ |
|          | ハチハチ乳剤      | 1,000倍       | 発生初期 / 4回以内 | アザミウマ類      |

注1) 薬剤抵抗性が発現しやすいのでローテーション散布を行って下さい。

注2) 花弁や葉の隙間に生息しているため、ていねいに薬剤散布して下さい。

注3) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用して下さい。

注4) 登録内容は平成19年9月13日現在のものです。

疑わしい症状を見つけた場合は、最寄りの農業振興事務所にご相談ください。

本資料に関する問い合わせ先：栃木県農業環境指導センター

TEL 028-626-3086 FAX 028-626-3012